

平成25年度 児童生徒の生活習慣病予防対策 肥満統計の概要と考察

目次

1. 支部別肥満児の割合	(小学校)	7. 支部別やせの割合	(小学校)	13. 学年別やせの全国との比較 (男子)
2. ”	(中学校)	8. ”	(中学校)	14. ” (女子)
3. 学年別肥満児の割合	(小学校)	9. 学年別やせの割合	(男子)	15. 支部別重度肥満児の割合 (小学校)
4. ”	(中学校)	10. ”	(女子)	16. ” (中学校)
5. 同一集団の9年間の経次推移 (男子)		11. 学年別肥満児の全国との比較 (男子)		17. 肥満調査結果の考察
6. ”	(女子)	12. ”	(女子)	

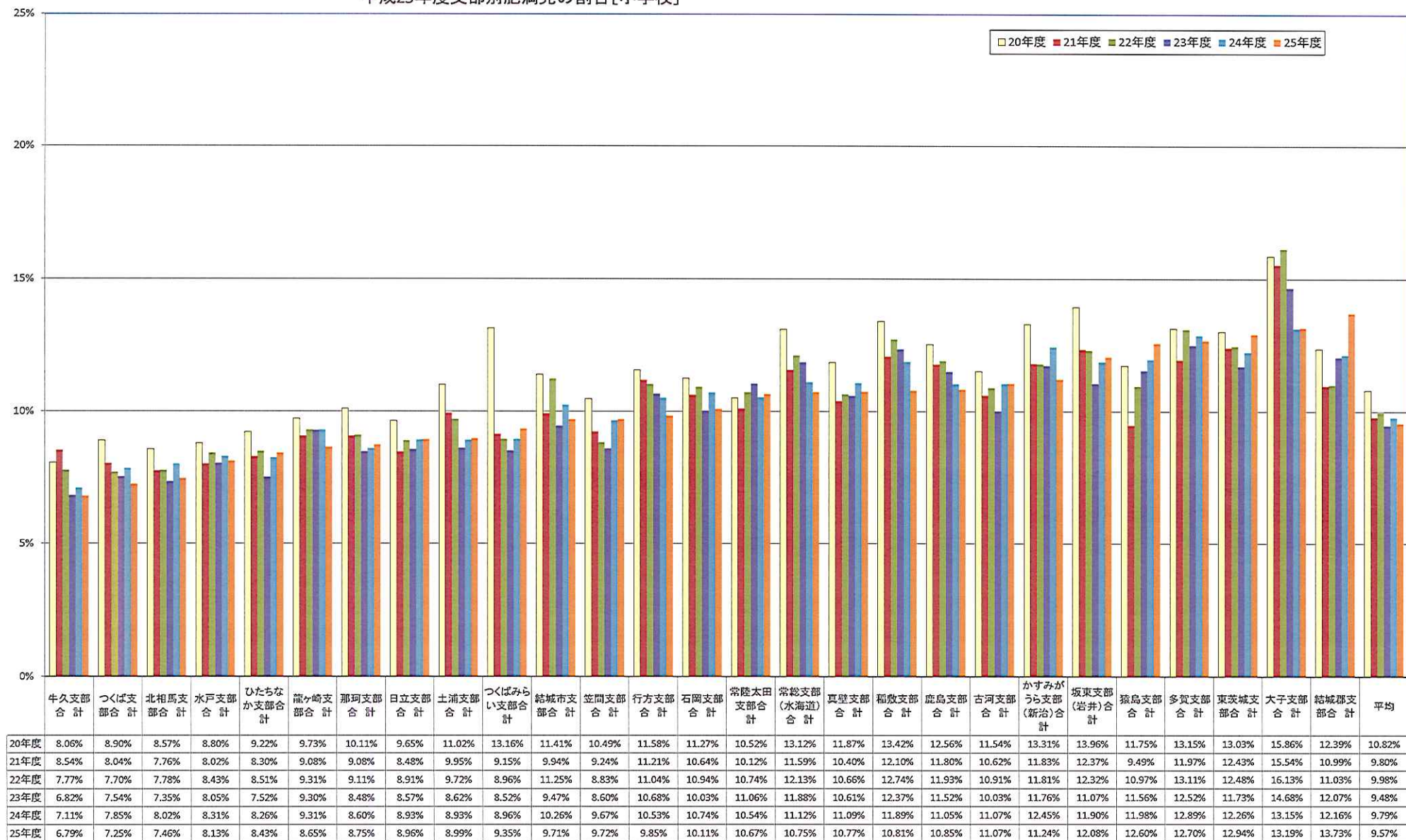
肥満対策委員会

委員長	山脇 英範	委員	荻野 義重	委員	片山 美千恵
委員	高橋 正彦	”	戸崎 五十三	”	根本 光子
”	平野 岳毅	”	上林 範子	”	井上 幹枝
”	平野 千秋	”	小川 正一	”	永山 みち子
”	野末 裕紀	”	海老澤 満志子	”	山口 広美

※ 詳細は各支部保健会事務局送付のCDをご覧ください。

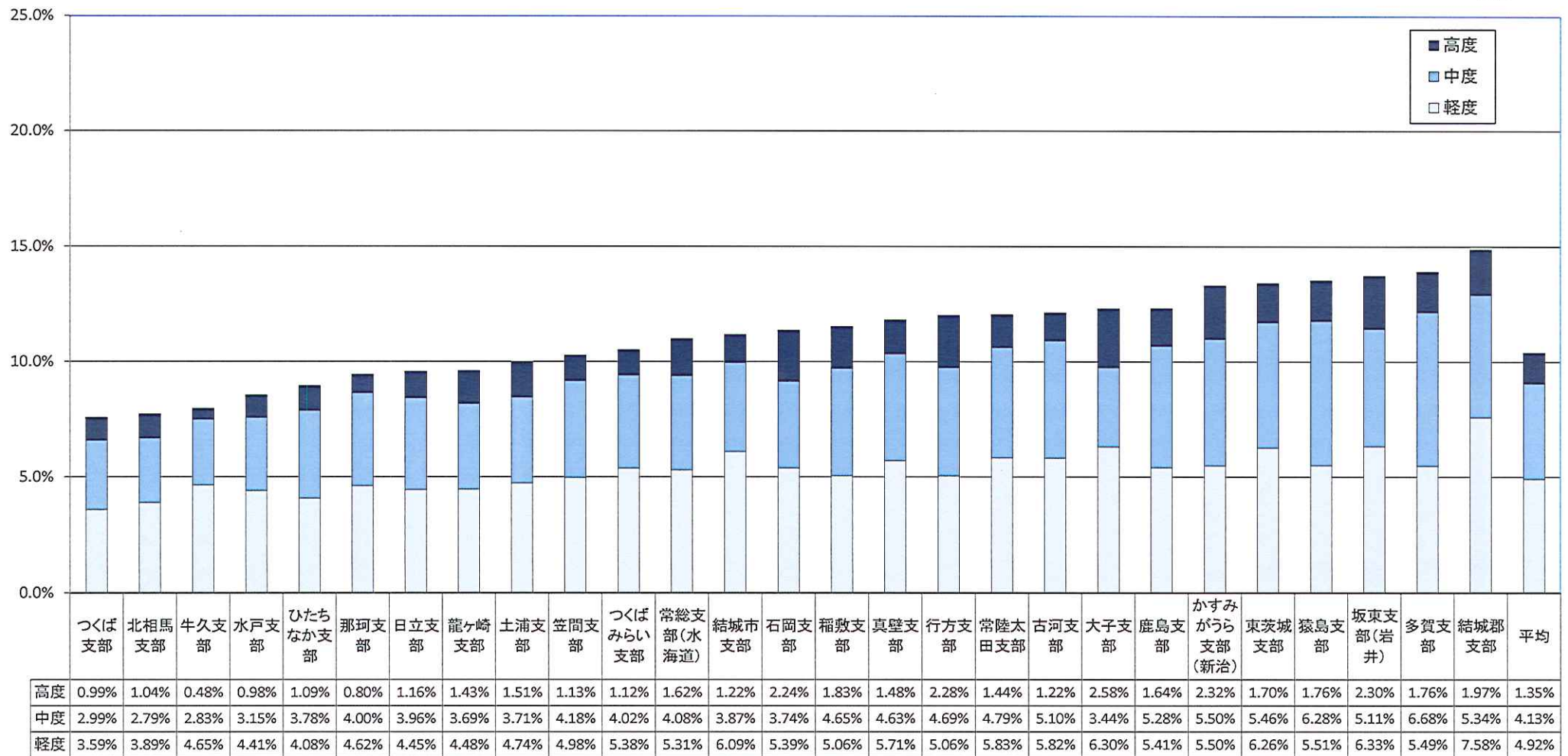
平成25年度支部別肥満児の割合[小学校]

図1



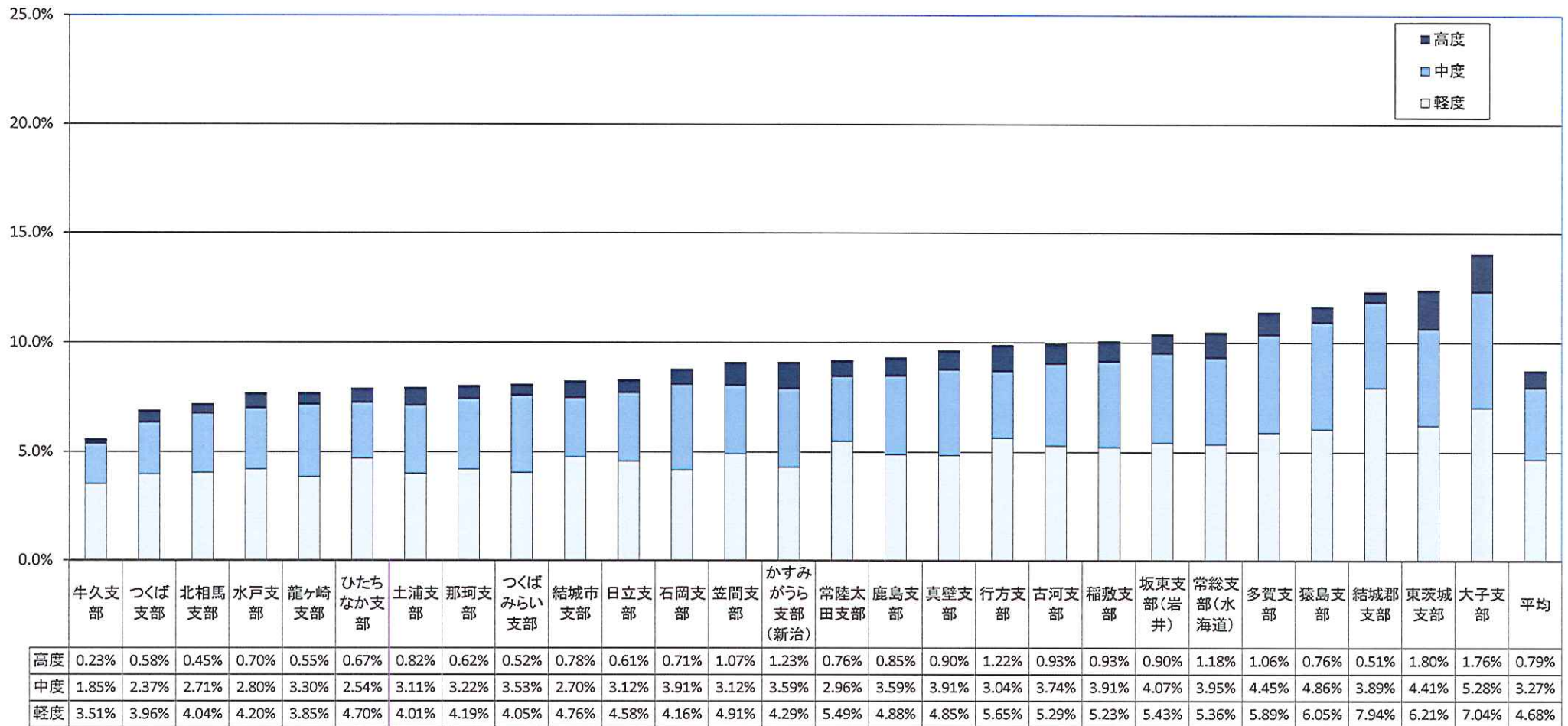
平成25年度支部別肥満児の割合[小学校男子]

図2



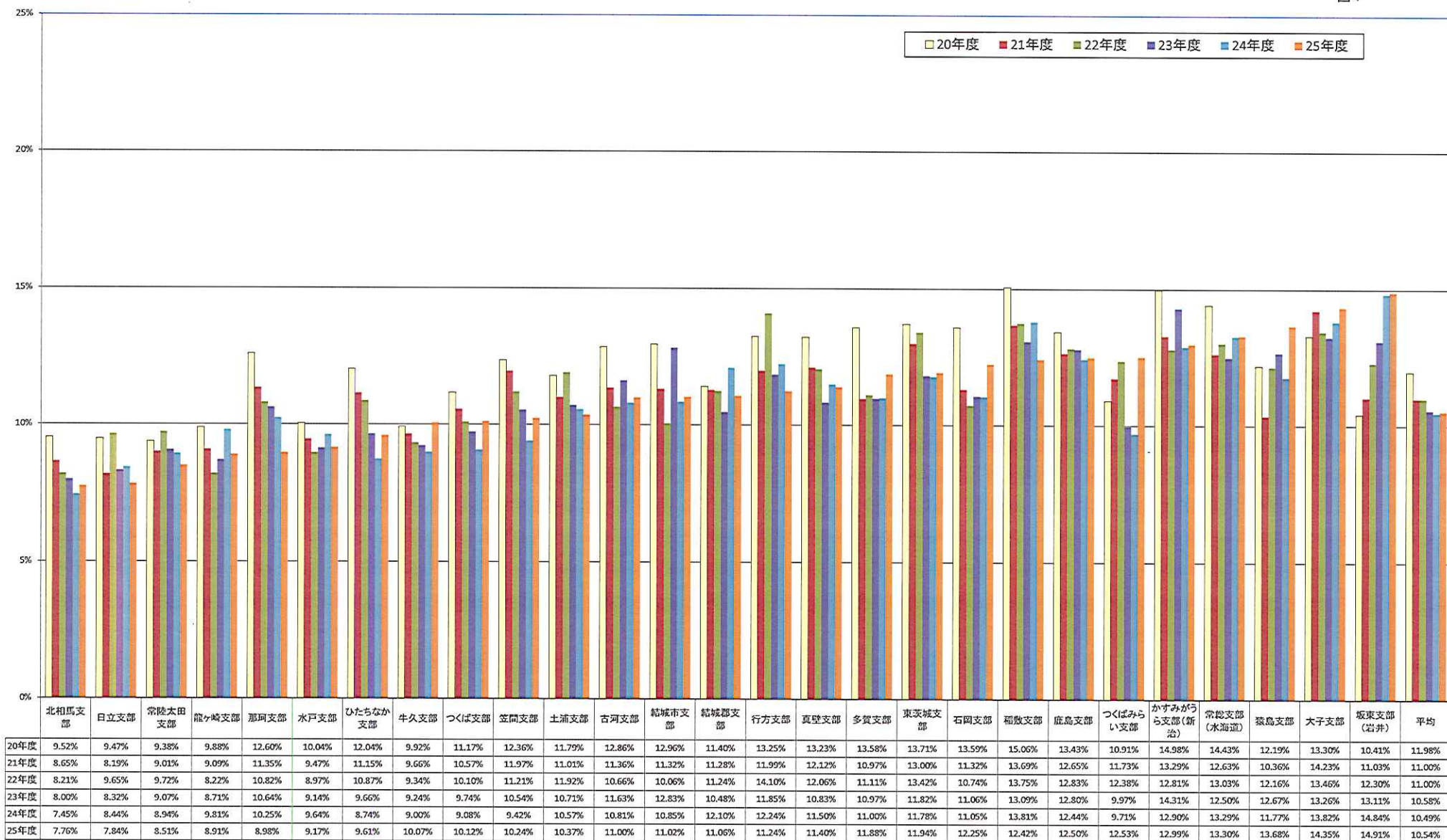
平成25年度支部別肥満児の割合[小学校女子]

図3



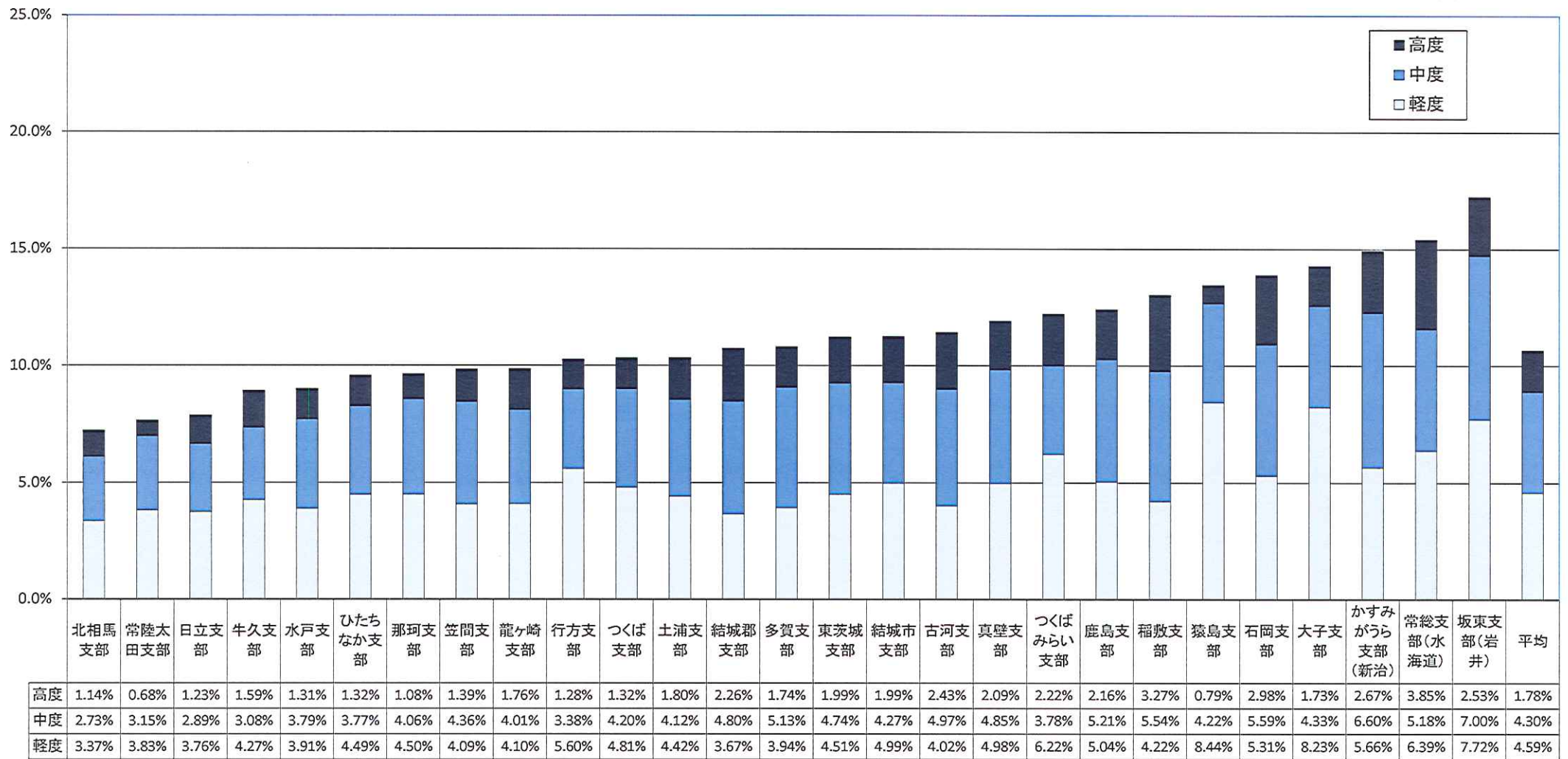
平成25年度支部別肥満児の割合[中学校]

図4



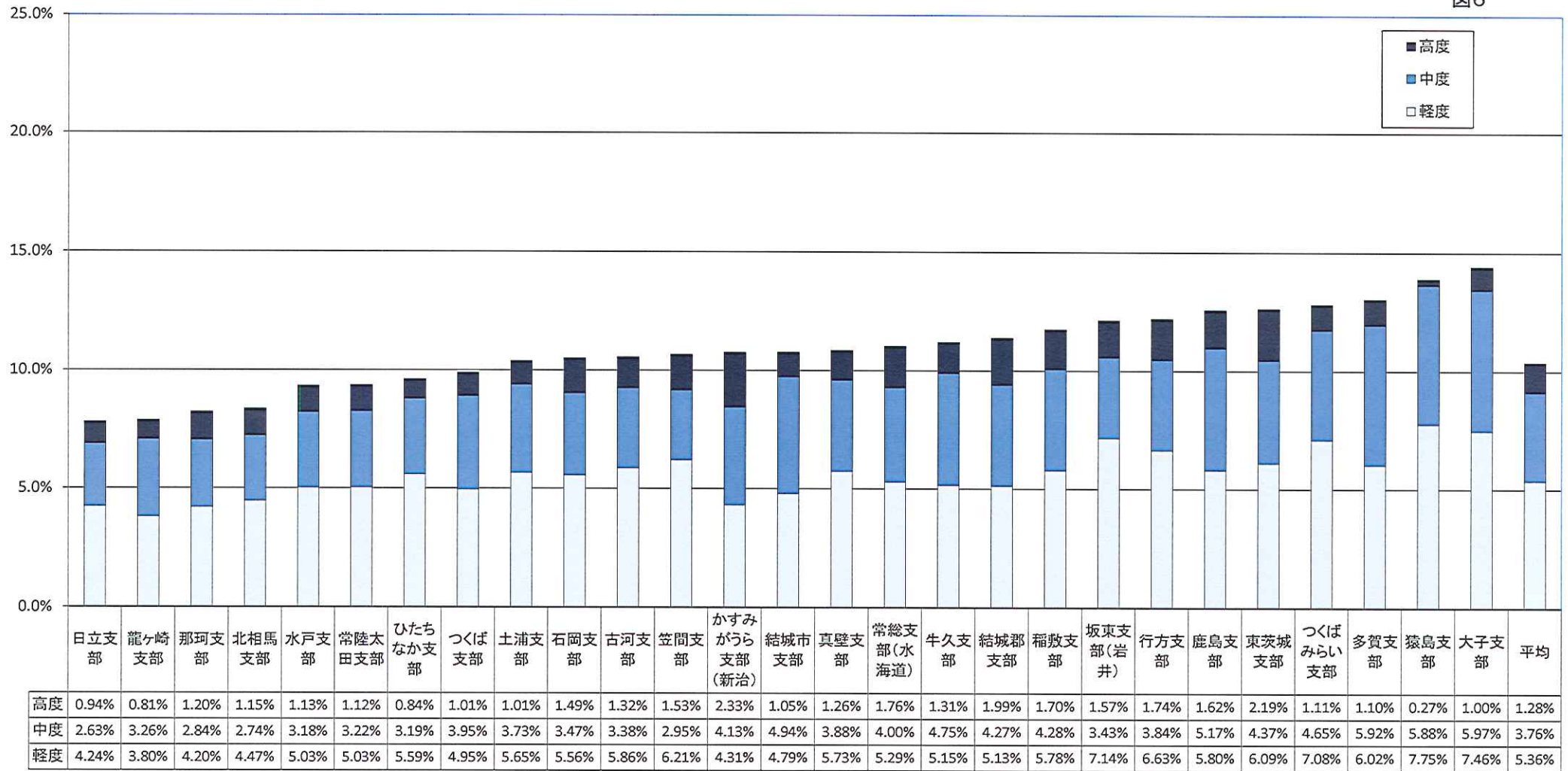
平成25年度支部別肥満児の割合[中学校男子]

図5



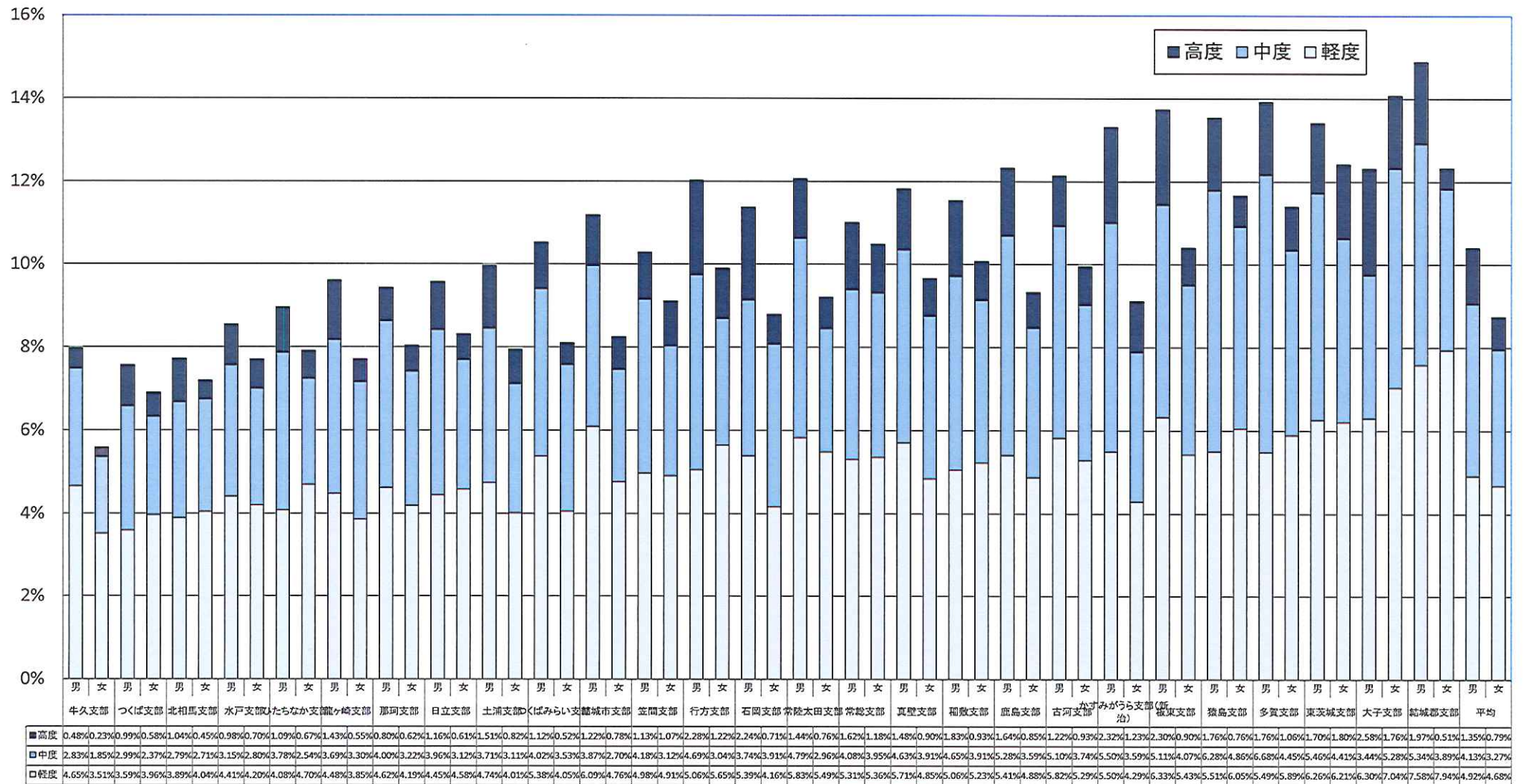
平成25年度支部別肥満児の割合[中学校女子]

図6



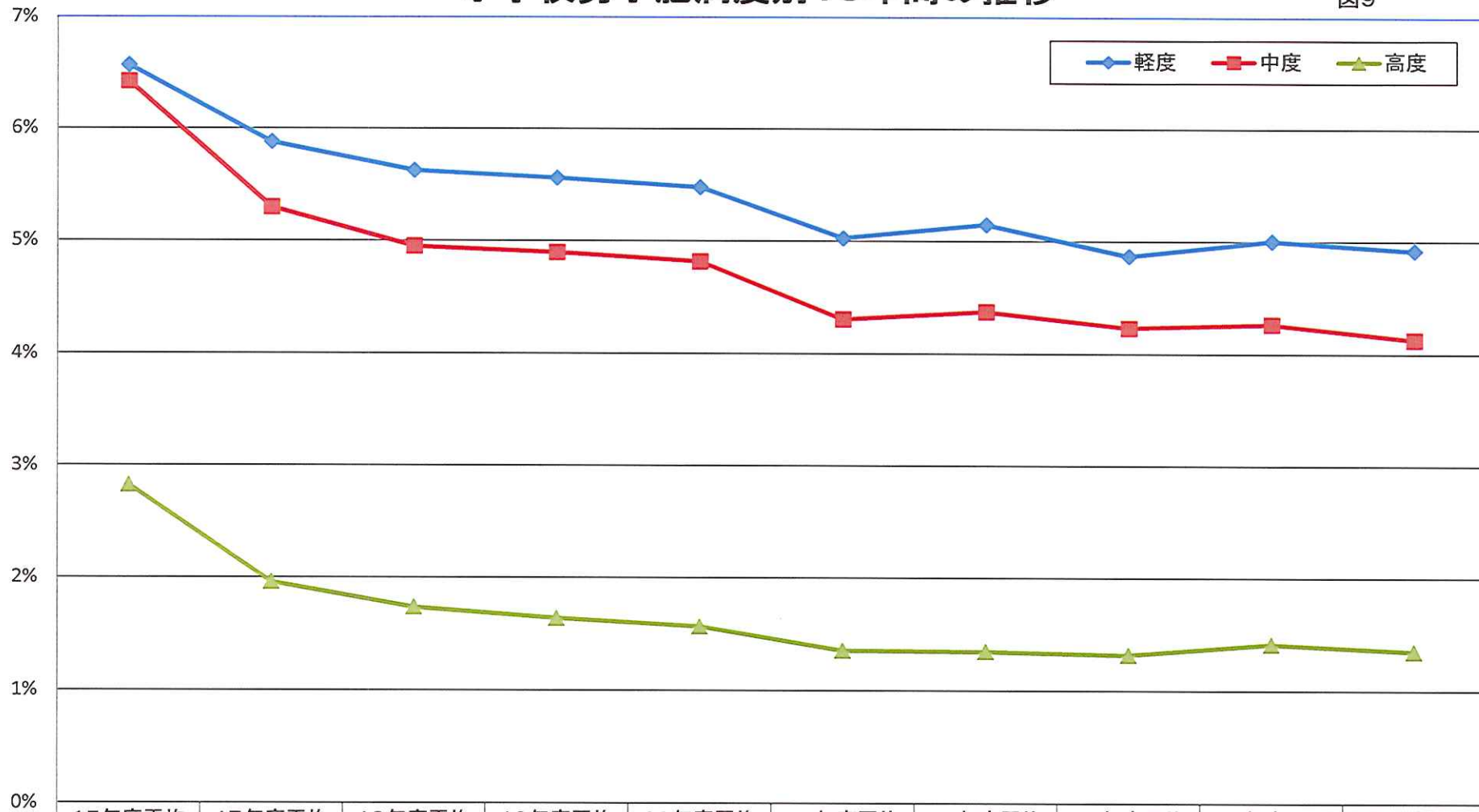
小学校支部別男女別肥満児の割合

図8



小学校男子肥満度別10年間の推移

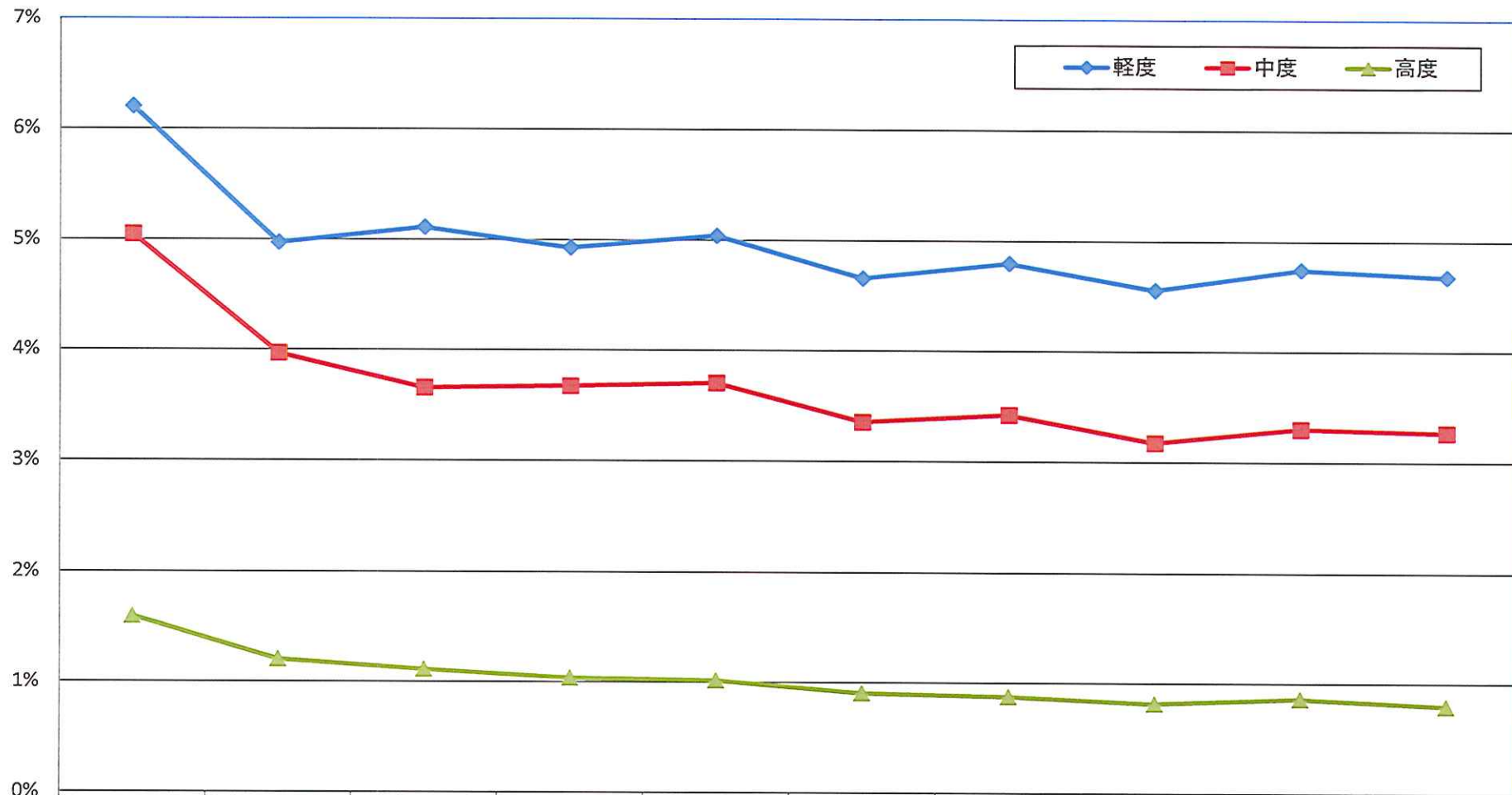
図9



	15年度平均	17年度平均	18年度平均	19年度平均	20年度平均	21年度平均	22年度平均	23年度平均	24年度平均	25年度平均
轻度	6.57%	5.88%	5.63%	5.56%	5.48%	5.03%	5.15%	4.87%	5.00%	4.92%
中度	6.42%	5.30%	4.95%	4.90%	4.82%	4.31%	4.37%	4.23%	4.27%	4.13%
高度	2.83%	1.96%	1.74%	1.64%	1.57%	1.36%	1.35%	1.32%	1.41%	1.35%

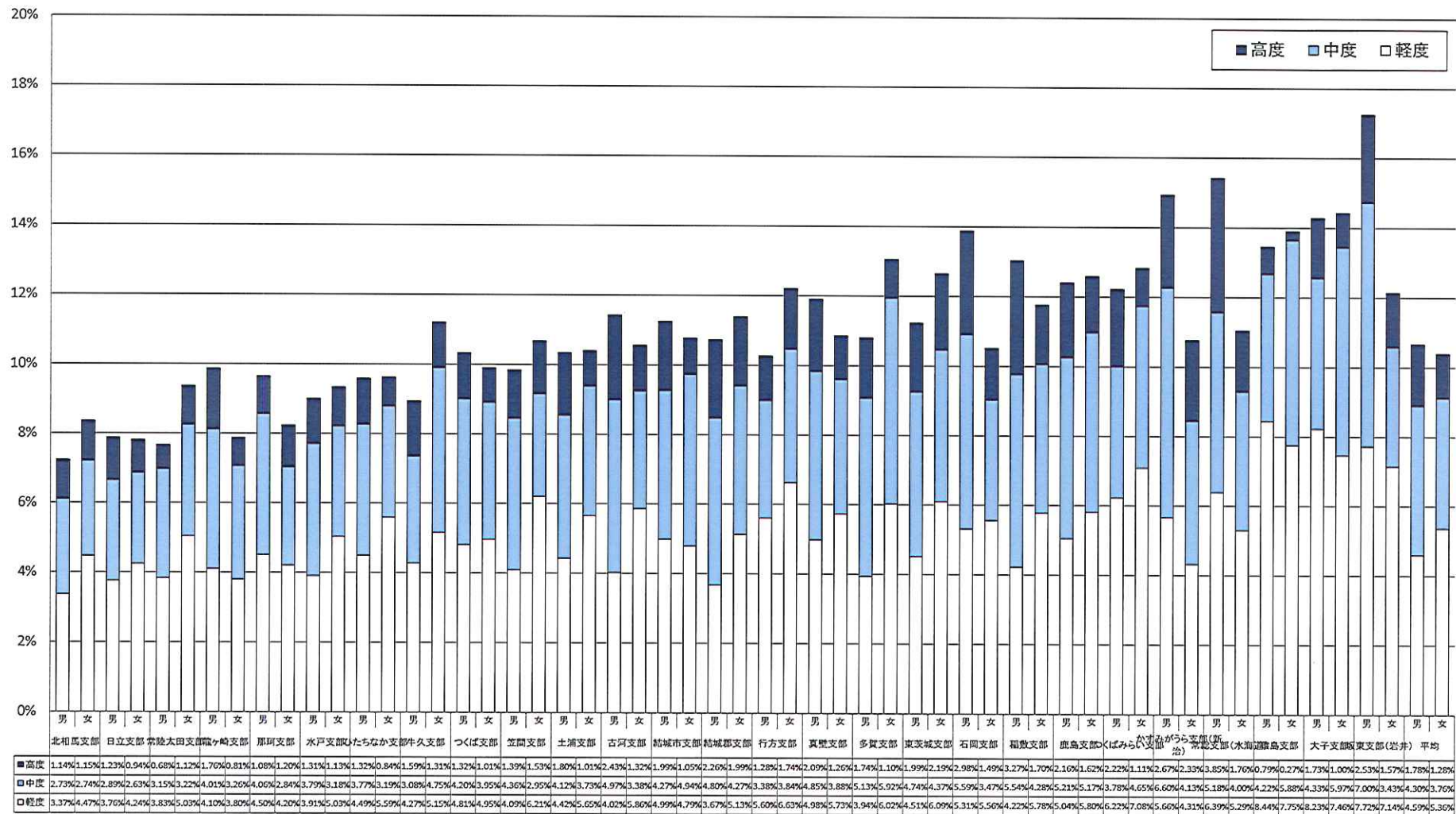
小学校女子肥満度別10年間の推移

図10



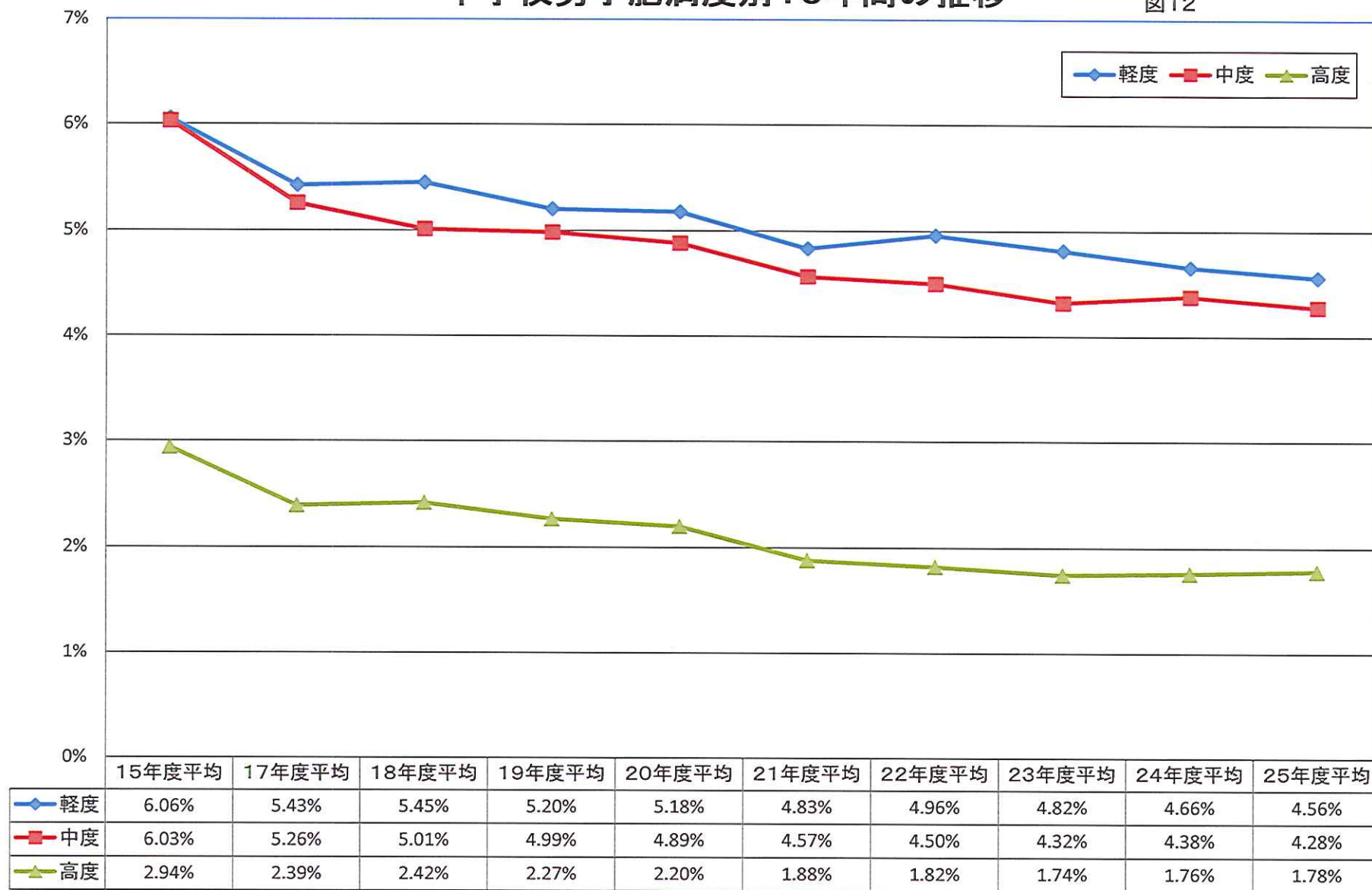
	15年度平均	17年度平均	18年度平均	19年度平均	20年度平均	21年度平均	22年度平均	23年度平均	24年度平均	25年度平均
軽度	6.20%	4.97%	5.12%	4.93%	5.04%	4.66%	4.80%	4.56%	4.75%	4.68%
中度	5.05%	3.97%	3.65%	3.67%	3.70%	3.35%	3.42%	3.17%	3.30%	3.27%
高度	1.60%	1.21%	1.11%	1.04%	1.02%	0.91%	0.88%	0.81%	0.86%	0.79%

図11



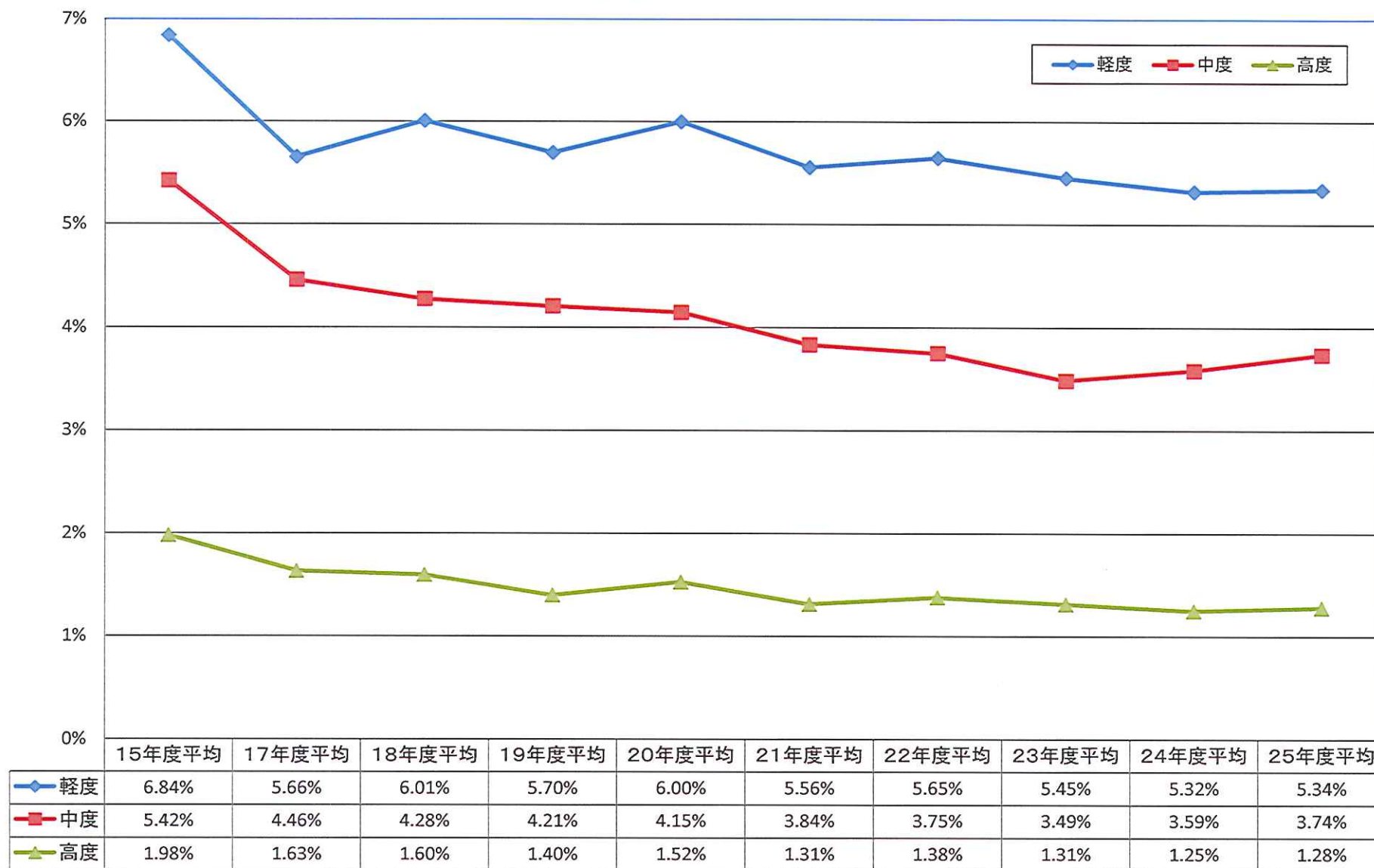
中学校男子肥満度別10年間の推移

図12



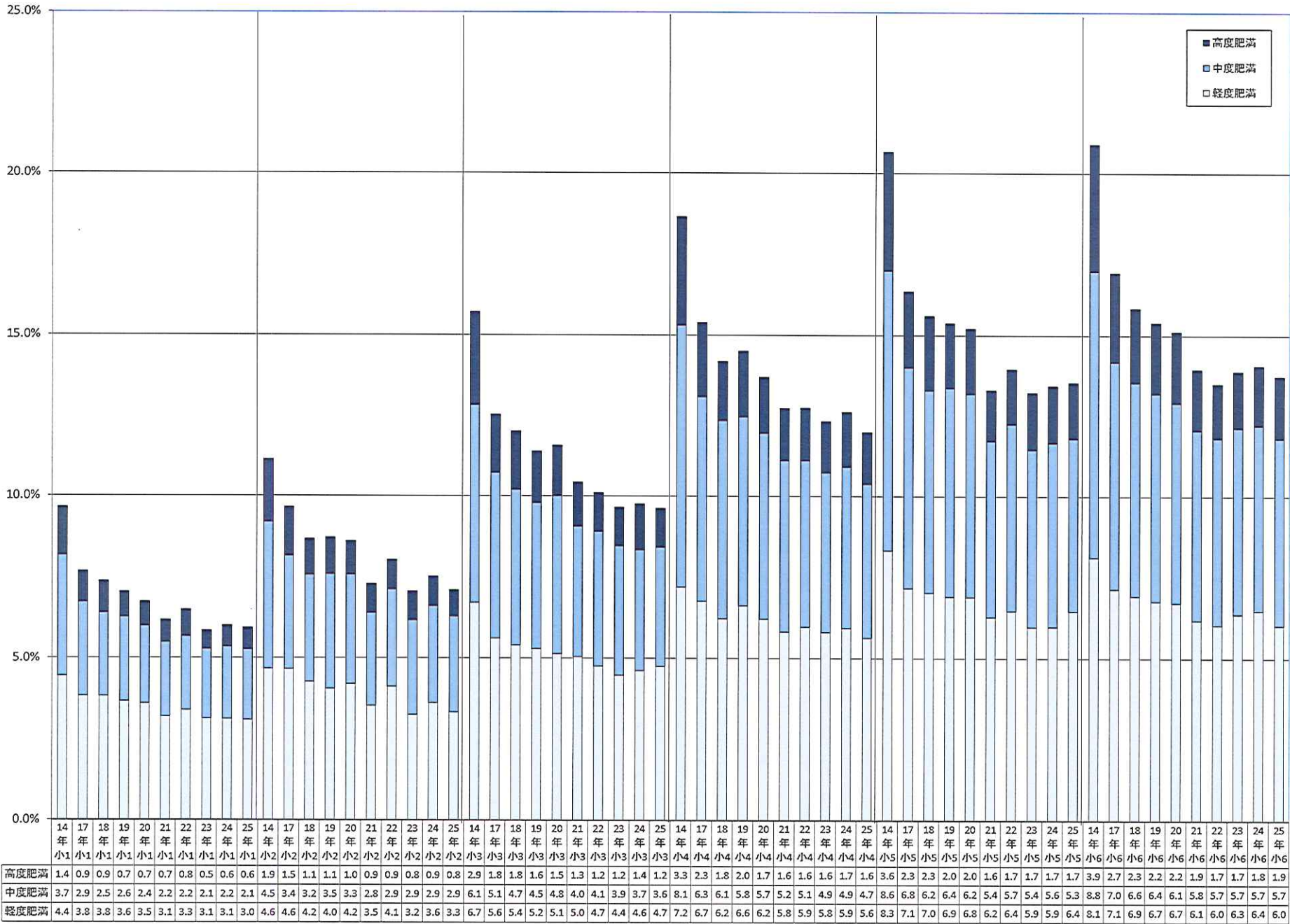
中学校女子肥満度別10年間の推移

図13



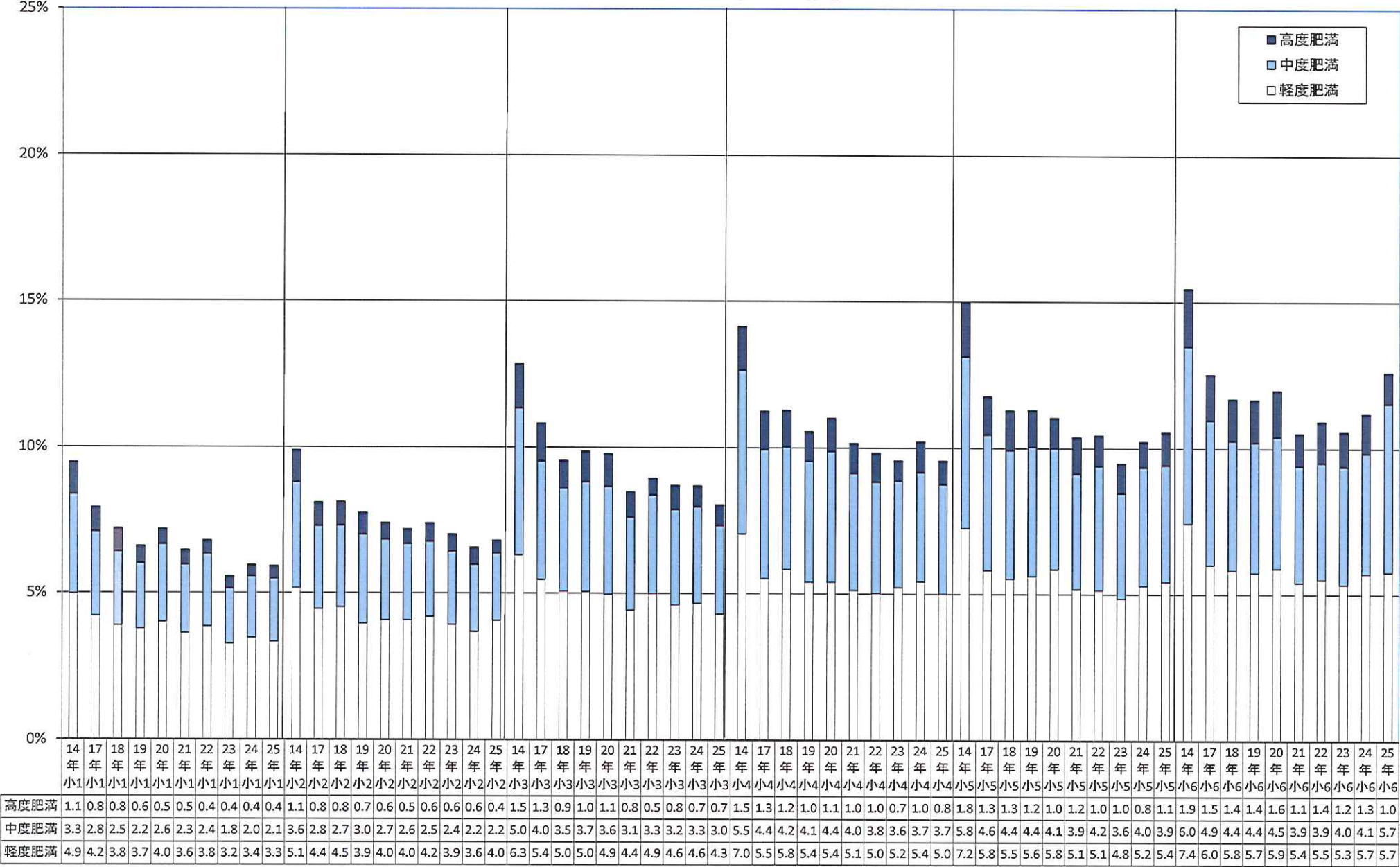
平成25年度学年別肥満児の割合[小学校男子](年次推移)

図14



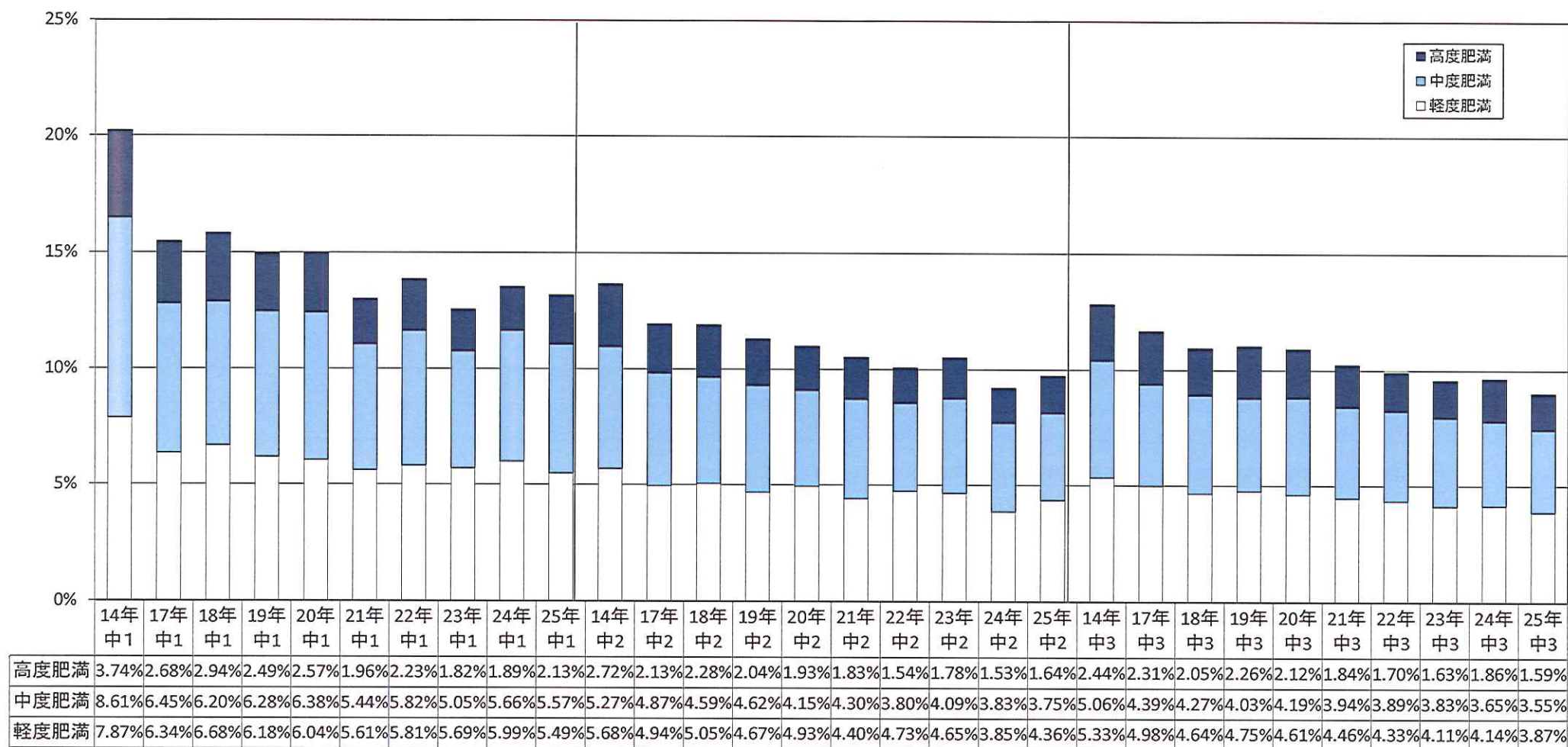
平成25年度学年別肥満児の割合[小学校女子](年次推移)

図15



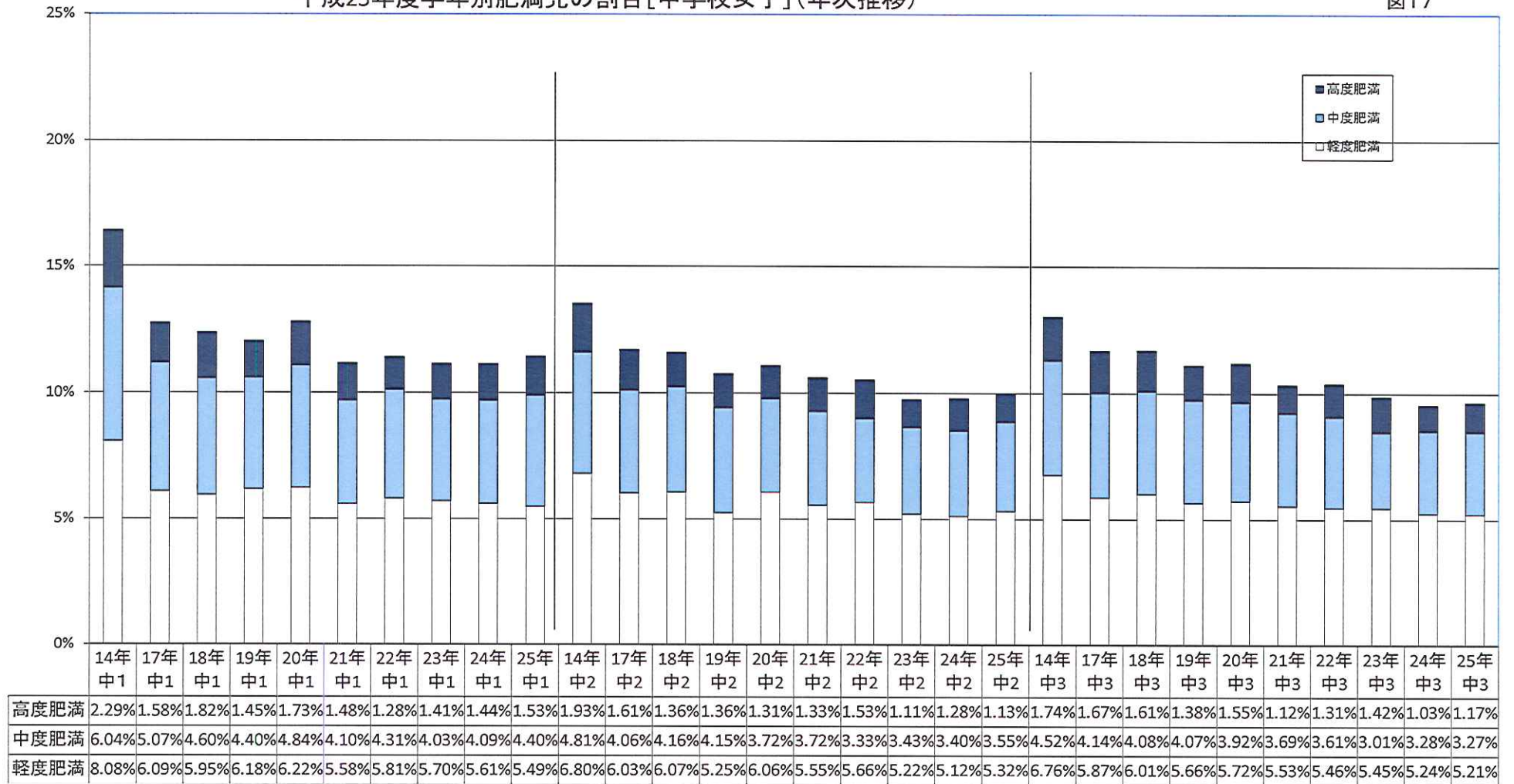
平成25年度学年別肥満児の割合[中学校男子](年次推移)

図16



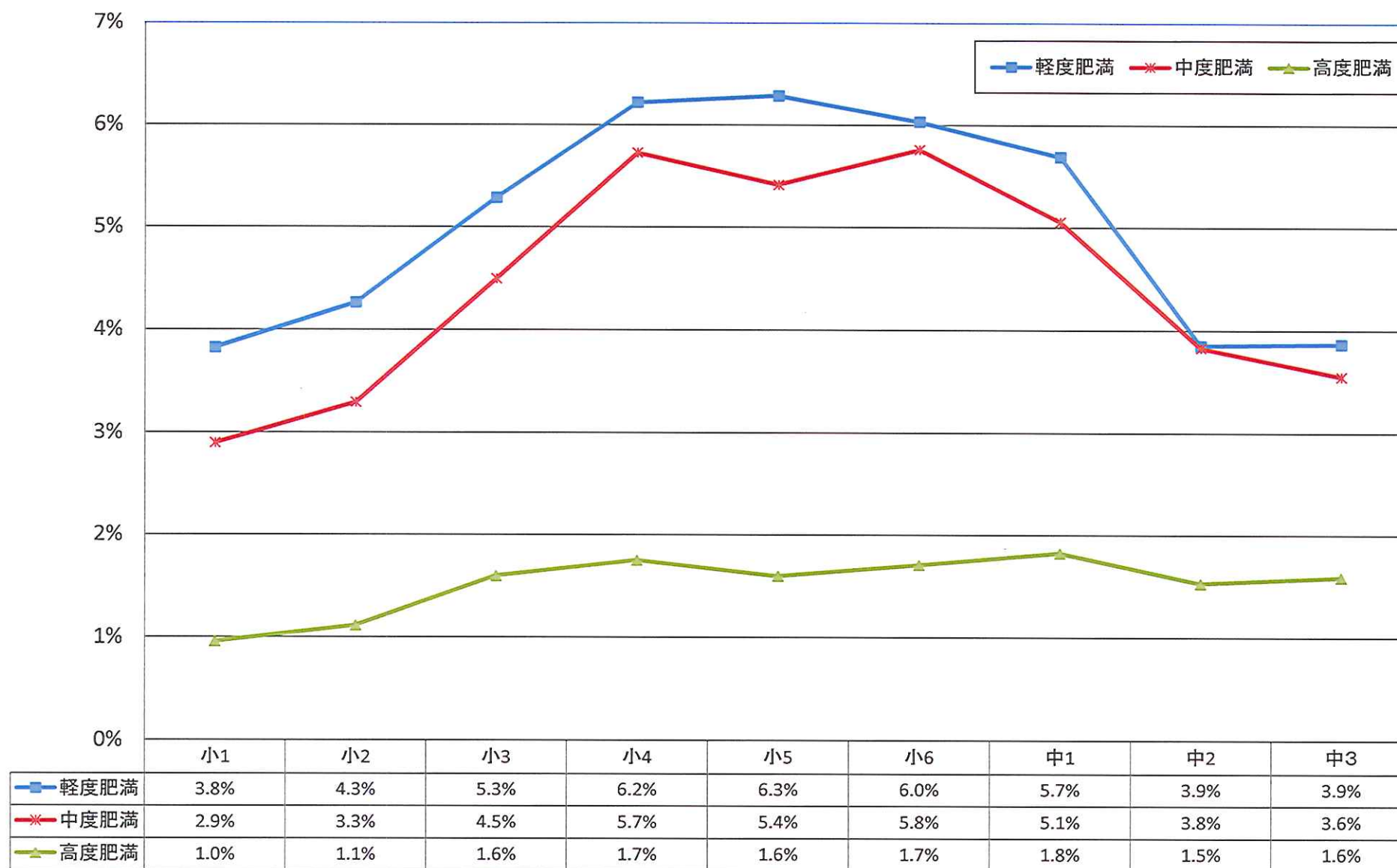
平成25年度学年別肥満児の割合[中学校女子](年次推移)

図17



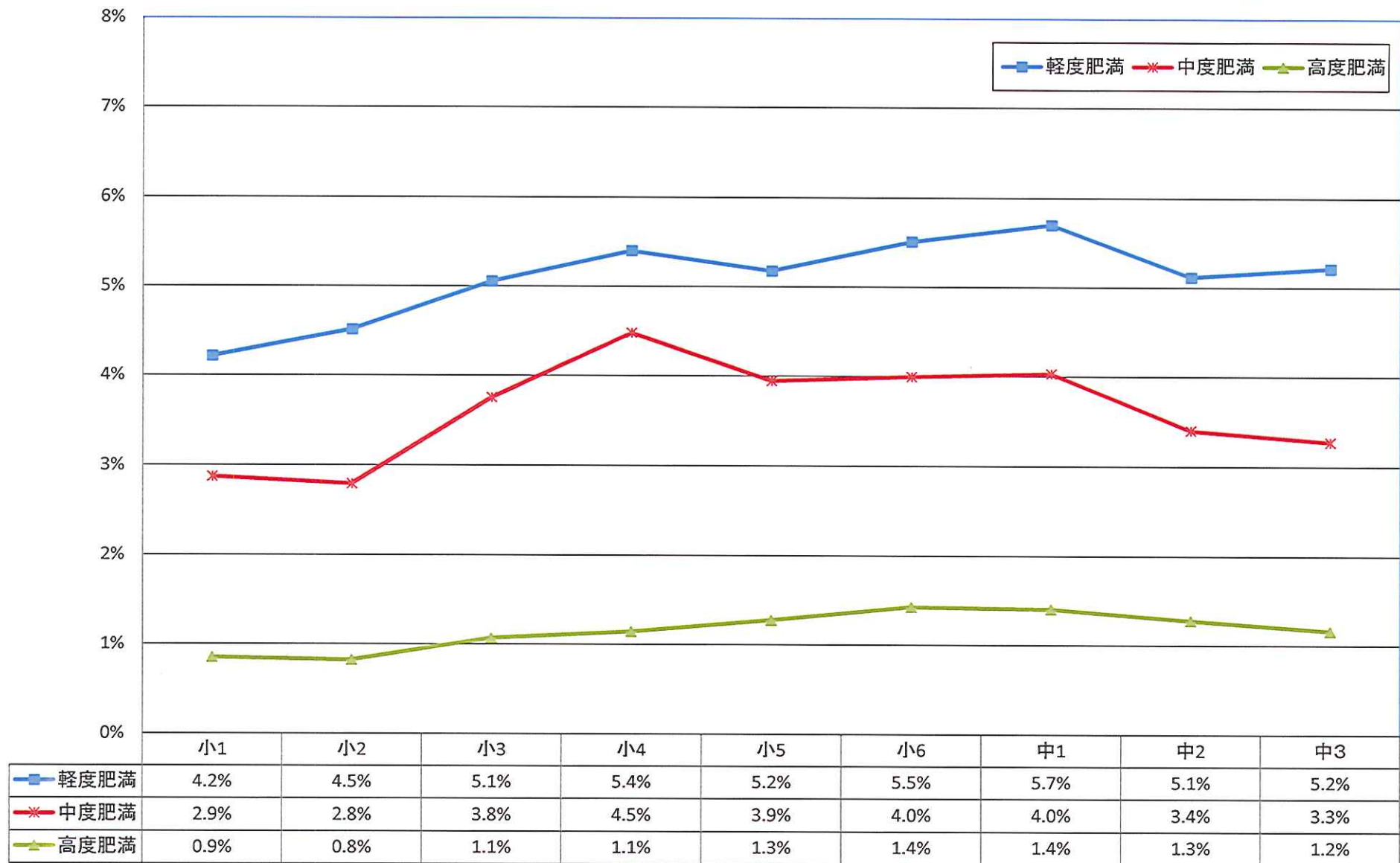
平成17年度小学校入学児童肥満児の9年間の推移(男子)

図18-1



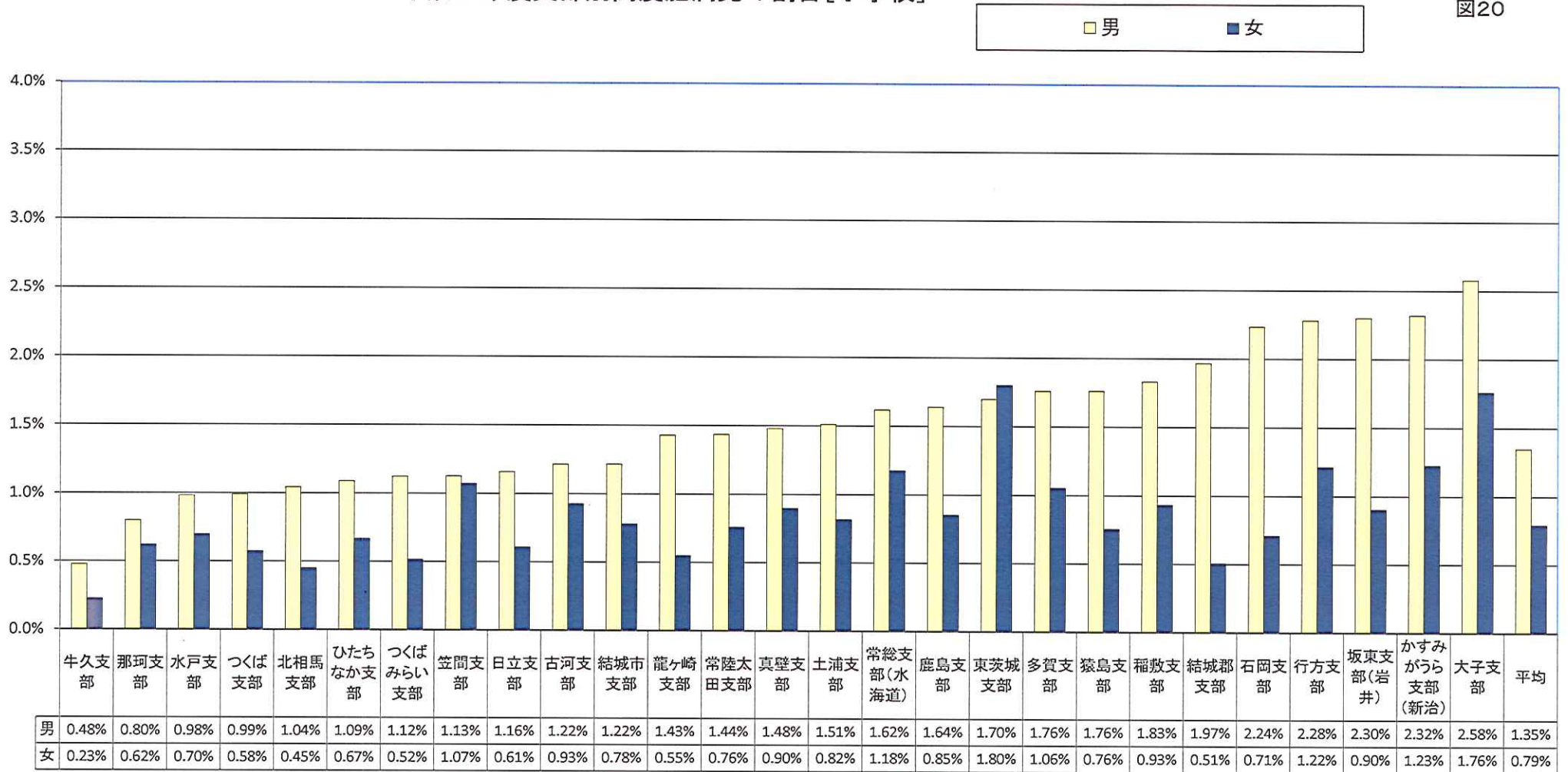
平成17年度小学校入学児童肥満児の推移(女児)

図19-1



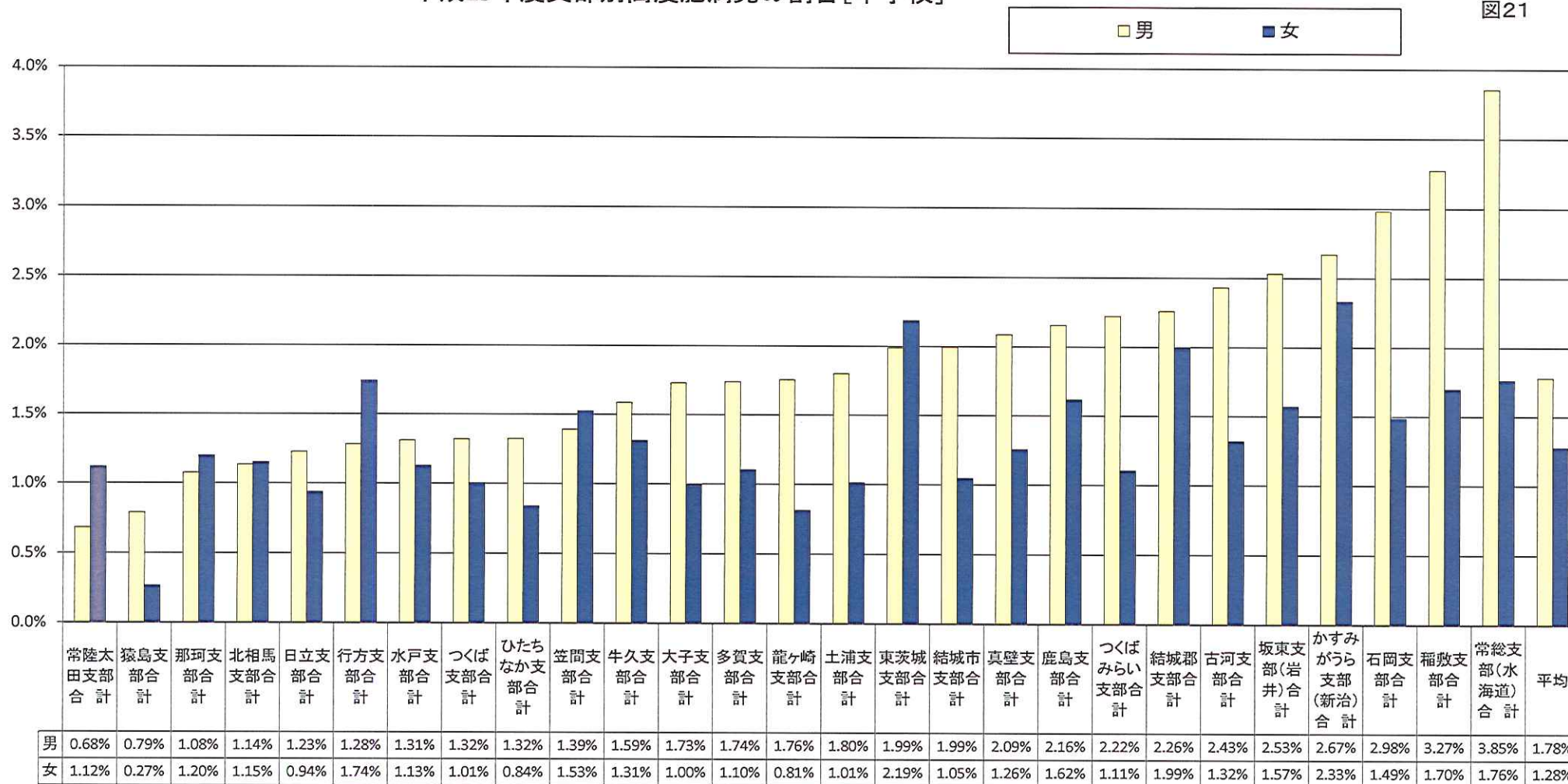
平成25年度支部別高度肥満児の割合[小学校]

図20



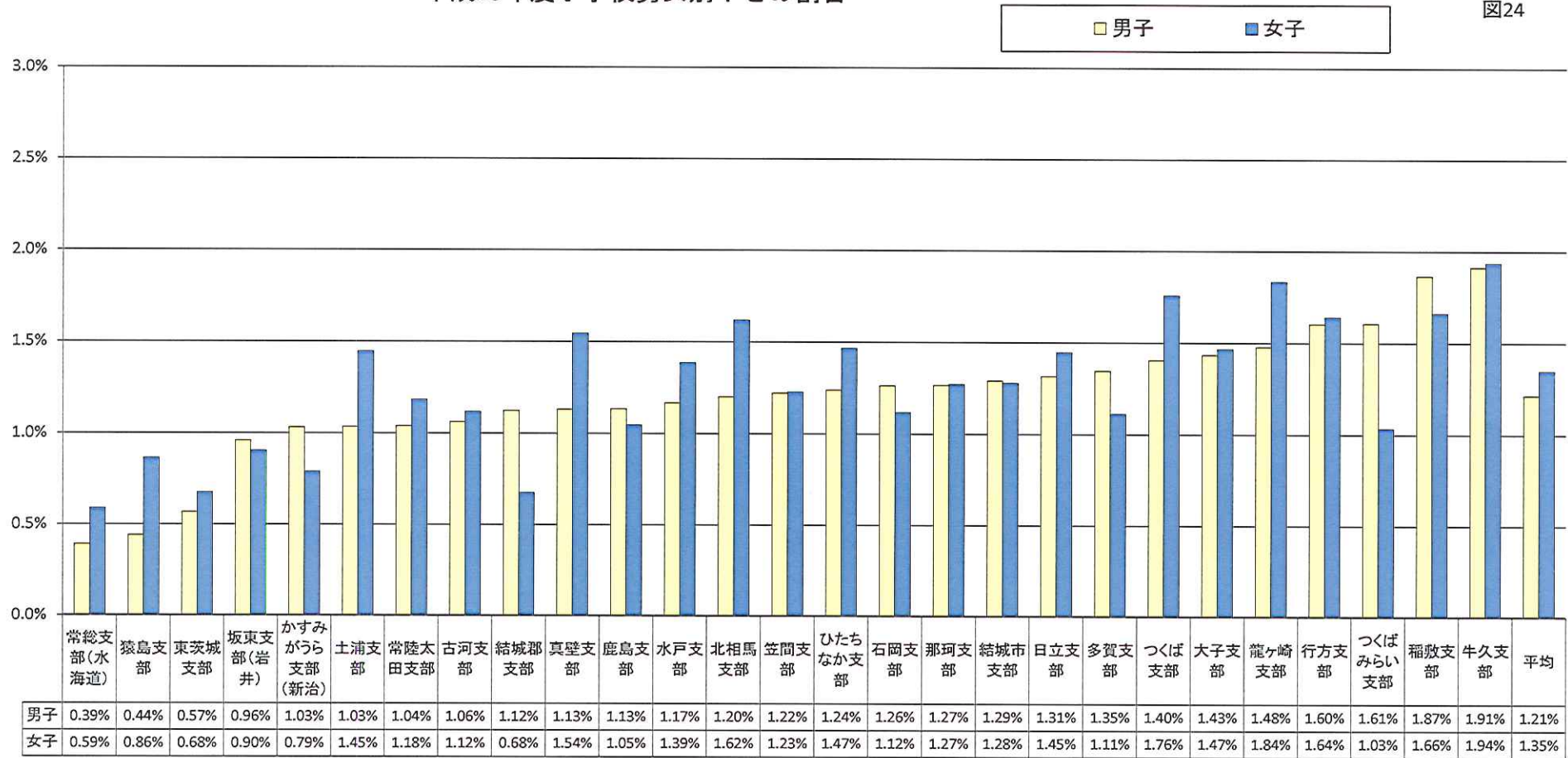
平成25年度支部別高度肥満児の割合[中学校]

図21



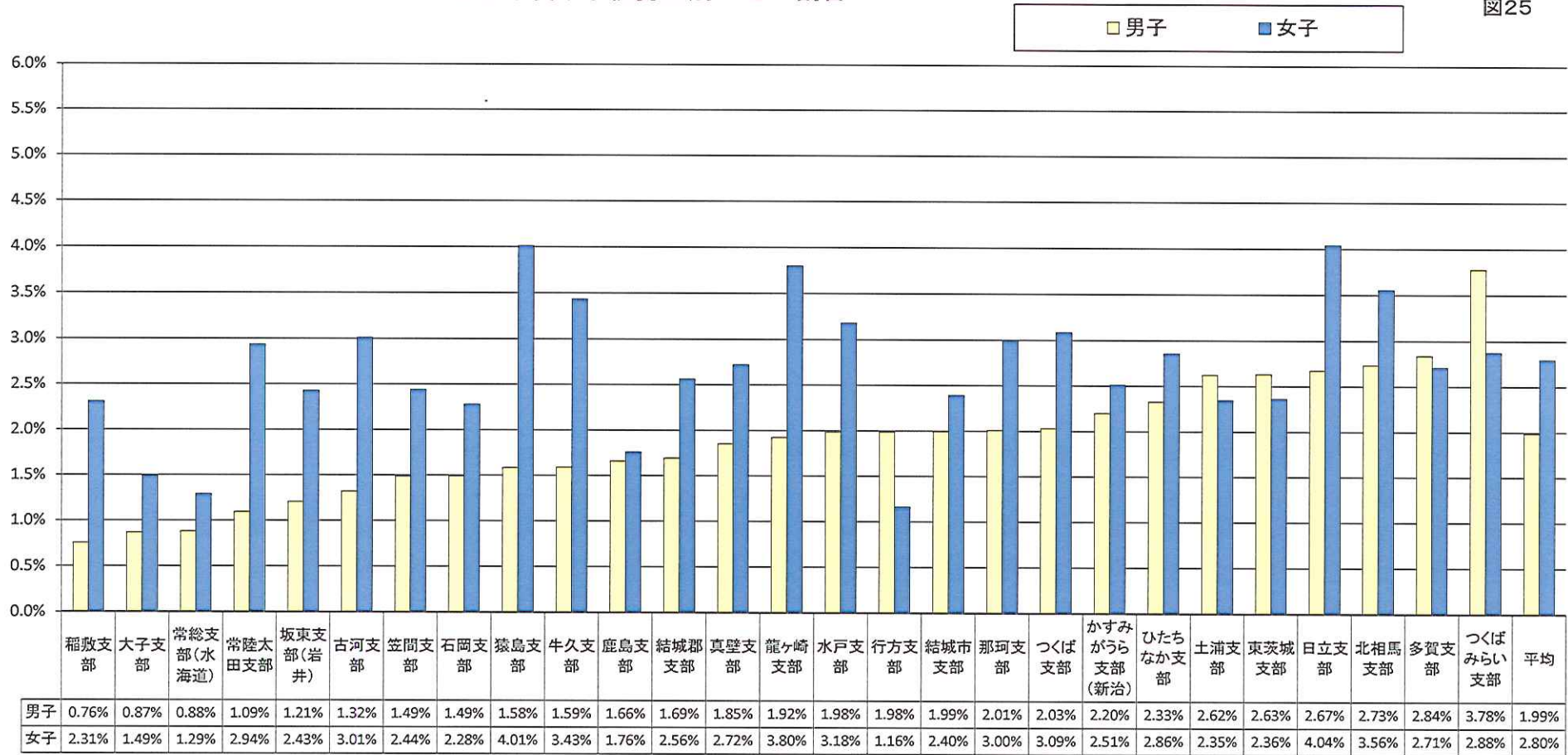
平成25年度小学校男女別やせの割合

図24



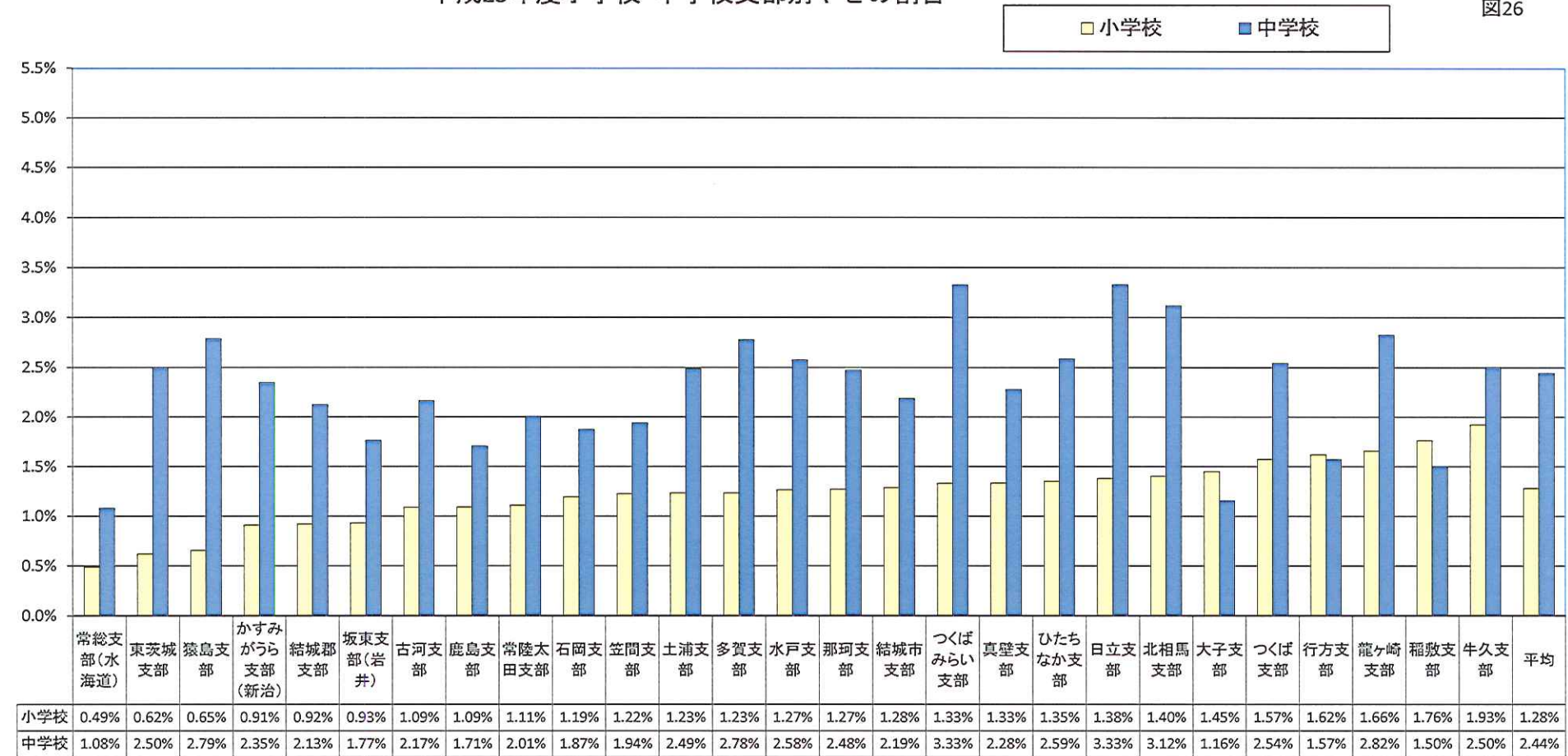
平成25年度中学校男女別やせの割合

図25



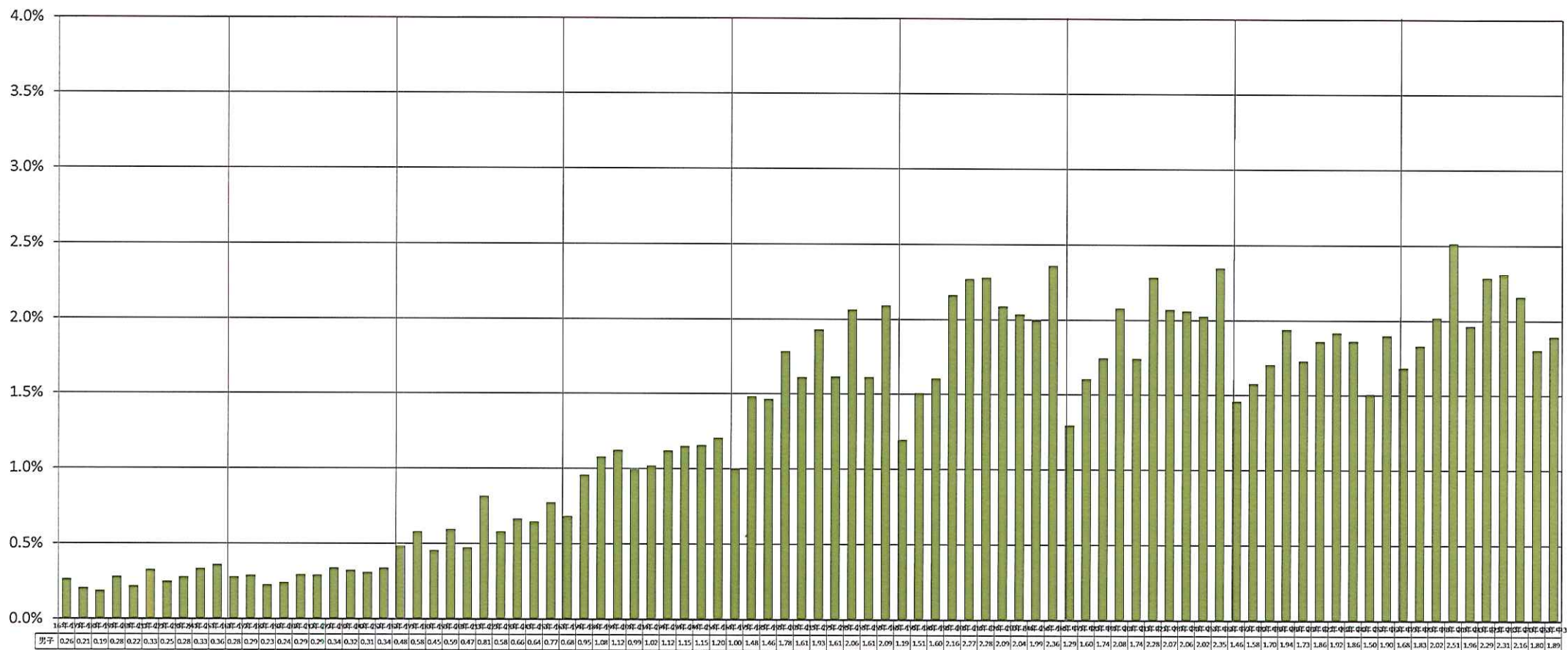
平成25年度小学校・中学校支部別やせの割合

図26



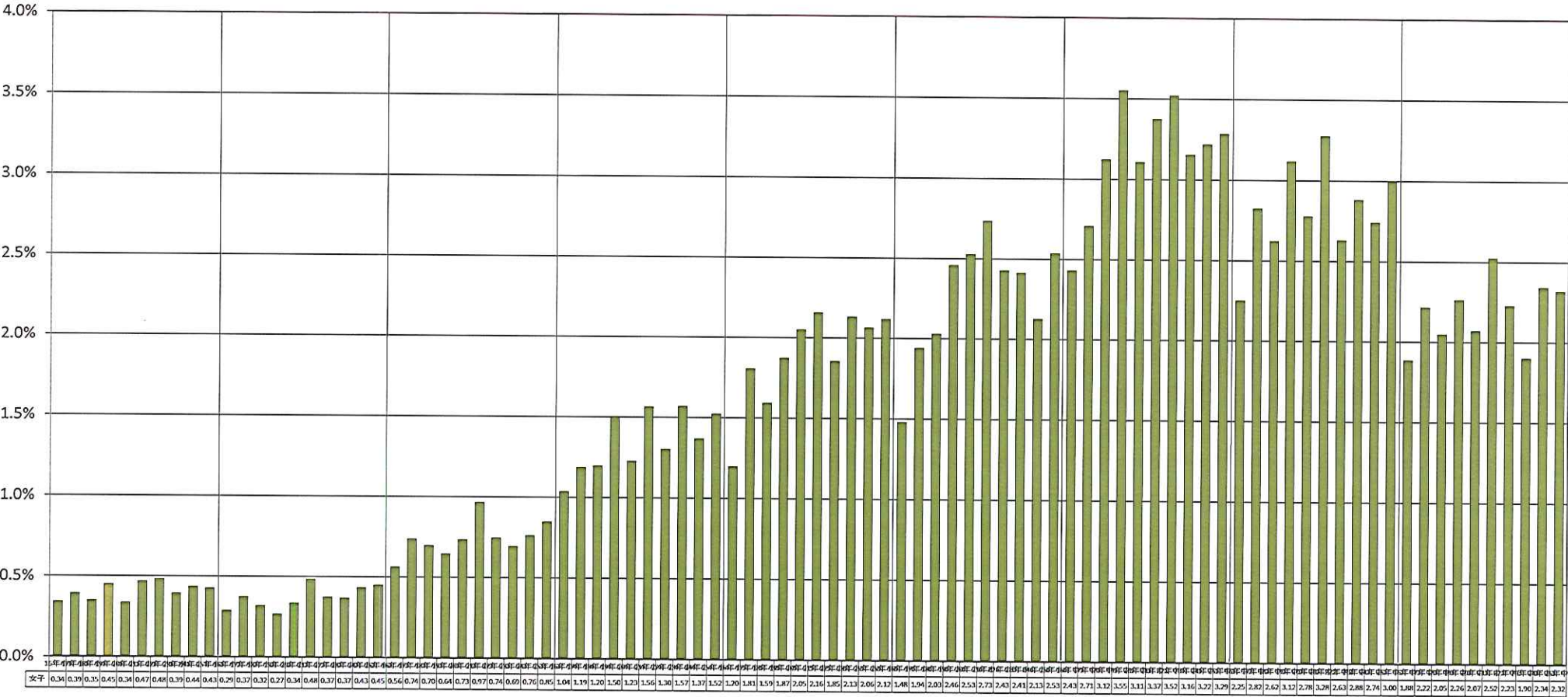
平成25年度学年別やせの割合[男子](過去10年間)

図27



平成25年度学年別やせの割合[女子](過去10年間)

図28



平成 25 年度肥満調査結果の考察

平成 14 年度から行っている肥満調査（やせについては平成 16 年度から調査）を、茨城県学校保健会 27 全支部の協力を得て、県内の小学生 157,851 名、中学生 79,143 名、計 236,994 名を対象に実施し、その結果をまとめた。

1 支部別肥満児の割合

1) 小学校（図 1・2・3）

- ・ 年々減少している肥満児の割合は平成 21 年度から 10%未満になり、今年度も 10%未満の 9.57%だった。今年度は昨年度よりも 0.22%減少していた。
- ・ 肥満児の割合が 10%未満だった支部は、昨年度より 2 支部増の 13 支部であった。
- ・ 肥満児の割合が低率である上位 13 支部は、牛久・つくば・北相馬・水戸・ひたちなか・龍ヶ崎・那珂・日立・土浦・つくばみらい・結城市・笠間・行方であり、低率上位に結城市と行方の 2 支部が加わった。
- ・ 肥満児の割合が高率である下位 3 支部は、結城郡・大子・東茨城で、昨年度下位 3 支部に入っていたかすみがうらは、肥満児の割合が 11%台に減少した。
- ・ 肥満児の割合が昨年度同様または減少した支部は 15 支部に増えたが、12 支部は肥満児の割合が昨年度より増加していた。肥満児の増加の割合が高率であった支部は、結城郡・東茨城・猿島だった。

2) 中学校（図 4・5・6）

- ・ 小学校同様、年々減少していた肥満児の割合は今年度やや増加し、一昨年並みの 10.54%であった。
- ・ 肥満児の割合が低率である上位 6 支部は、北相馬・日立・常陸太田・龍ヶ崎・那珂・水戸で、昨年度、低率上位から落ちた龍ヶ崎と水戸は、それぞれ肥満児の割合が一昨年度並みまで戻った。一方、北相馬支部の肥満児の割合は 7%台であるが、昨年度に比べて 0.31%増加していた。
- ・ 肥満児の割合が高率である下位 2 支部は今年度も坂東と大子で、かすみがうらは肥満児の割合が 12%台を保っていた。
- ・ 昨年より肥満児の割合が減少した支部は 10 支部である。
- ・ 肥満児の割合が 10%未満だった支部は 3 支部減の 7 支部だった。

3) 小学校と中学校の比較（図 7）

- ・ 例年同様、小学校より中学校の方が肥満児の割合は 0.92 ポイント弱多かった。

4) 男女の比較（図 8・9・10・11・12・13）

- ・ 小学校の県平均で、軽度・中度・高度肥満の割合は、いずれも女子より男子の方が多く、ほとんどの支部で同様の傾向がみられた。また、それは例年と同様の傾向であった。（図 8）
- ・ 小学校は男女とも、軽度・中度・高度すべての肥満の割合が減少して、昨年との違いが見られた。（図 9・10）

- ・ 中学校は 15 支部で男子より女子の方が肥満の割合が多くなっていたが、県平均の割合は、小学校と同様に女子より男子の方が多かった。（図 11）
- ・ 中学校男子は軽度・中度とも肥満の割合は減少したが、高度肥満の割合は昨年度に続き微増していた。女子は軽度・中度・高度とも肥満の割合が増加していた。（図 12・13）

2 学年別肥満児の割合

1) 過去 10 年間の比較（図 14・15・16・17）

- ・ 小学校男子は、小学 5 年以外はどの学年も肥満の割合が減少していた。（図 14）
- ・ 小学校女子は学年で違いが見られた。小 3・小 4 で肥満の割合が減少し、小 2・5・6 で肥満児の割合は増加した。（図 15）
- ・ 中学校 1 年男子は昨年より肥満は減少したが 2 年は増加、3 年は減少していた。（図 16）
- ・ 中学校女子はどの学年も微増傾向だった。（図 17）
- ・ 調査を始めた 10 年前と比較すると、小・中男女とも、どの段階についても肥満の割合は減少していることが分かる。

2) 9 年間の同一集団内の経時推移（図 18・18-1・19・19-1）

- ・ 男子は小学 6 年をピークに、その後は減少する傾向にあったが、今年度は小 5 にピークが移りそうな学年がある。今年度も、中学 2 年で大きな減少が見られた。（図 18）
- ・ 女子の肥満は中 1 までは増加傾向にあるが、その後減少している。しかし、男子のような大きな変化は見られない。（図 19）
- ・ 平成 17 年度小学校入学の肥満児童の 9 年間の変化（男子）を見ると、高度は小学校低学年でゆるやかに増加するが、その後横ばいが続く。中度・軽度は小学校 5・6 年までは増加し、中学校入学後大きく減少した。（図 18-1）
- ・ 平成 17 年度小学校入学の肥満児童の 9 年間の変化（女子）を見ると、高度は小学 1 年から中学 3 年までほぼ横ばいで肥満児の割合に変化は見られない。中度・軽度は男子のような大きな変化は見られないが、小学校高学年まで緩やかに増加し、中学校入学後緩やかに減少した。（図 19-1）

3) 高度肥満児の割合（図 20・21）

- ・ 小学校について支部別男女別に見ると、男子の割合が多く、平均は男子 1.35%、女子 0.79%である。平均内に入っているのは 11 支部である。（図 20）
- ・ 中学校も同様の結果であるが、平均は男子 1.78%、女子 1.28%と、男女とも小学校よりも平均が高くなっている。男女とも平均内に入っているのは 14 支部である。（図 21）

4) 肥満度別 10 年間の推移（図 9・10・11・12）

- ・ 25 年度、中学校女子の肥満度が軽度・中度・高度とも微増傾向にあったが、小学校男女、中学校男子については調査開始時から緩やかではあるが軽度・中度・高度とも肥満の割合は少なくなっている。

3 やせについて

1) 支部別の割合 (図 22・23)

- ・ 今年度は小・中学校ともやせの割合は増加していた。
- ・ 小学校で昨年度よりやせの割合が減少したのは7支部, 中学校では8支部だった。

2) 男女別の割合 (図 24・25)

- ・ 女子の方がやせの割合が多い。中学校は男子 1.99%, 女子 2.80%と, 男女差が大きい。

3) 小・中学校別の割合 (図 26)

- ・ ほとんどの支部で小学校 (平均 1.28%) より中学校 (平均 2.44%) の方がやせの割合が多い。

4) 過去 10 年間の学年別割合 (図 27・28)

- ・ 男子は年々増加し, 小学 5 年生で大きく増加, 小 6, 中 1 と大きな変化はなく, その後減少傾向が見られる。
- ・ 女子は学年が進むにつれ増加し, 中 1 をピークに, 中 2 年から減少する。小学校は小 4・5, 中学は中 1 で大きく増加する。

5) 9 年間の経時推移 (図 29・30)

- ・ 男女ともに学年が進むにつれ増加するが, 男子は小 6 まで, 女子は中 1 までの 1 年間の増加量が多い。しかしその後, 中 2, 中 3 とやせの割合は減少する傾向にある。

4 全国平均との比較

1) 肥満児の割合 (図 31・32)

- ・ 男子は学年が上がるにつれて全国平均との差が開くが, 差は小 5 をピークに減少し, 中 2, 中 3 で落ち着き全国平均に近くなっていく。
- ・ 平成 24 年度の中 3 男子の県の平均値が, 全国の平均値を下回った。
- ・ 女子も全国平均との差は大きい, 小 6 をピークに中 1, 中 2, 中 3 と肥満の割合は減少していく。しかし女子は, 男子ほどの減少は見られない。

2) やせの割合 (図 33・34)

- ・ 男子は中 1 までは全国平均を下回っているが, 中 1 から全国平均に近づき, 中 2・中 3 で全国平均を若干上回る。昨年度とほぼ同様の傾向である。
- ・ 女子はどの学年もやせの全国平均を下回っているが, 学年が上がるとその割合は増加している。やせの割合は中 1 がピークで, その後中 2, 中 3 とやせの割合は減少している。

5 まとめと今後の課題

平成 14 年から肥満調査を実施してきて、年々順調に減少してきた肥満児の割合は平成 19 年頃から減少率が緩やかになり、昨年度、小学校では肥満児の割合が増加したが、今年度は減少した。中学校の肥満児の割合は、今年度はわずかであるが増加し、一昨年並みの結果であった。小学校では 10%未満、中学校では 11%未満が続いているが、小中とも、年によって増減を繰り返しているのもこれ以上の減少はないかと思われる。小学校では 10%未満が 5 年連続していることは成果であるが、次年度以降の動向に注目していきたい。

小学校に入学してから 9 年間の推移は、高度の割合にあまり変化はなく、中度・軽度に増減が見られた。中学校に入学すると減少していた肥満は、中度・軽度の生徒であり、高度の生徒は減少していなかったと考えられる。このことから、肥満対策は、高度と中度・軽度の二本立てが効果的と考える。

ただ、全国平均と比較すると本県はまだ肥満児の割合が多い。高度肥満児が全国平均の約 2 倍となっている学年がみられた。高度肥満の割合は入学後も増加していき、中学校入学後にある程度は減少するが、大きな変化は見られない。高度肥満の解消の難しさを考えると、就学前の肥満対策と、小学校低学年で解消させるための対策を講じたい。今年度も、家庭はもちろん、幼稚園や保育所との連携も考えていくことと、小学校での食育・運動習慣等への取り組みが課題である。さらに肥満防止、生活習慣の改善に努力をしていきたい。

肥満児の多い地域、少ない地域が固定しており、生活習慣はもちろん地域の特性も関係すると考えられる。児童生徒のみでなく保護者や学校医と学校が連携し改善を図りたい。その意味でも、生活習慣記録表の活用を呼びかけていきたい。そして、さらに「咀嚼からみた肥満対策」として食育・食習慣への取り組みも行いたい。

やせは全国平均より少ないが、いずれもよりよい生活習慣を身につけることができるよう、肥満児と同様、注意して見ていく必要がある。